

校種・学年・教科等名 中学校・3年・社会科  
実践名：「情報の信頼性を吟味できる」

## 中学校第3学年社会科（公民的分野）学習指導案

日時：平成23年 月 日（ ）

場所：山鹿市立鹿本中学校 3年1組教室

授業者：教諭 佐渡 絢子

1 単元名 「現代社会とわたしたちの生活」（東京書籍 p 5～26）

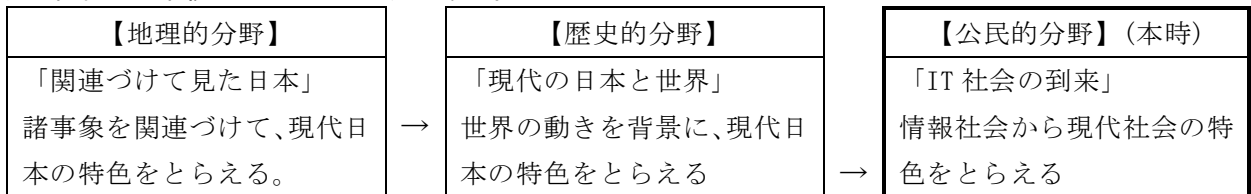
### 2 単元について

(1) 1950年代から急速な経済成長をとげた日本経済は、人々の生活に大きな変化をもたらした。電化製品の普及や外食産業の発達による女性の社会進出、国際社会における人的・物的グローバル化、そして、コンピューターやマスメディアの発達による情報化もその1つであり、現代社会の特色となっている。

本単元は、社会的事象を地理的分野や歴史的分野と関連させながらとらえ、現代社会にはどのような特色が見られるか、どのような伝統や文化の影響を受けているのかを理解させ、これ以後の公民的分野の学習に対して生徒の関心を高めることを主なねらいとしている。

本単元での様々な資料から現代日本の特色や文化の持つ意義に読み取る活動は、今後の公民的分野の学習の基礎となる政治や経済、国際社会の学習の基礎的な見方や考え方を養うためにも有効である。

(2) 本単元の系統は以下のとおりである。



地理的分野の「関連づけて見た日本」では、自然環境、人口等の地理的事象を関連づけて、現代日本の特色をとらえる方法について学んだ。歴史的分野の「現代の日本と世界」では、世界の動きを背景に、現代日本の特色をとらえることを学んだ。公民的分野では、地理的分野と歴史的分野の学習を活用し、戦後の日本の経済成長の動きを背景に現代社会の成り立ちや人々の生活の変化をとらえ、現代社会の特色について学習する。

(3) 生徒の実態は以下のとおりである。（在籍数32人）

本学級は、男子16人、女子16人の学級である。社会科の授業においては、落ち着いた真面目な学習態度で取り組むことができるが、教師の投げかけに反応したり、挙手をして発言したりする生徒は限られている。特に自分の考えを根拠に基づき説明したり、資料から読み取ったことをもとに社会的事象を考察したりすることには苦手意識があり、自分一人ではなかなか取り組めない生徒もいる。

また、情報に関する授業を行うにあたっての事前アンケートの結果は以下のとおりである。

(1) あなたが何か情報を得る時に使うものは何ですか。	テレビ	〇〇人
	パソコン	〇〇人
	インターネット	〇〇人
	本・雑誌	〇〇人
	携帯電話	〇〇人
	新聞	〇〇人
	ニュース	〇〇人

(2) (1)の場合に、2つ以上のものから情報を得たり、情報を比較したりすることがありますか。	ある ない	〇〇人 〇〇人
(3) あなたは新聞を読みますか。	毎日読む ときどき読む ほとんど読まない 読まない	〇〇人 〇〇人 〇〇人 〇〇人
(4) どのような記事を読みますか。	テレビ スポーツ 4コママンガ 一面 事件・事故 天気予報 政治 本の紹介 映画 芸能	〇〇人 〇〇人 〇〇人 〇〇人 〇〇人 〇〇人 〇〇人 〇〇人 〇〇人 〇〇人

ほとんどの生徒が情報を得る手段としてさまざまな情報メディアを活用している。しかし、複数のメディアから得た情報を取捨選択したり、比較したり、情報を吟味している生徒は少ない。日々大量の情報があふれている現代社会において、情報を吟味する力や心構えを身につけさせる必要がある。また、日頃新聞に接している生徒が少ないため、取り組みやすい写真やタイトルを比較する活動から学習を進める。

(4) 指導にあたっては次の点に留意する。

① 社会科教育の視点から

- ア 本単元では、異なる新聞社の新聞記事を比較する活動を通して、不特定多数の情報に影響を受けやすい現代社会の特色を理解し、情報を選択する必要性を理解できるようにする。
- イ 写真、タイトル、記事の内容等視点を提示し、それぞれを比較させることによって、受け取る印象の違いがよりわかりやすいようにする。
- ウ 根拠をもとに自分の考えを説明できるように、発表やまとめ方の例文を示す。
- エ お互いの違いを認め合ったり、友達の意見を参考に考えを深めたりする活動を通して、学び合う集団づくりをすすめ、思考力・判断力・表現力を高める。

② 情報モラル教育の視点から

- ア 本時は「モデルカリキュラム」の目標「3. 安全への知恵」、「e 4-1: 情報の信頼性を吟味できる」との関連を重視して展開する。
- イ 情報モラルの内容の取り上げ方については、異なる新聞社の新聞記事から受け取る印象の違いに気づき、情報を選択して利用しようとする態度を育てることに着目して指導を行う。

③ 人権教育の視点から

- ア 一人ひとりが自分の考えや意見を、自信を持って発言できるような人間関係づくりに努める。
- イ 班活動では、リーダーを中心に、互いの考えや意見の違いを認め合い、良いところを褒め合いながら、全ての生徒が話し合いに意欲的に参加できる環境づくりに努める。

### 3 単元の目標と評価規準

単元の目標	高度経済成長以降のさまざまな社会的事象の学習を通して、現代社会の成り立ちや生活の変化をとらえ、現代社会の特色に気づくことができる。
社会的事象への関心・意欲・態度	社会的事象とそれに基づく生活の変化に関心をもち、これからの学習への意欲を高めることができる。
社会的な思考・判断・表現	現代社会の社会的事象をさまざまな角度からとらえ、社会生活と関連づけて考えることができる。
資料活用の技能	年表や写真資料、グラフから読み取ったことから現代社会の成り立ちや生活の変化についてまとめることができる。
社会的事象についての知識・理解	高度経済成長期の日本の発展の過程を、生活や意識の変化などの身近な社会的事象と関連させて理解することができる。

### 4 指導・評価の計画（6時間取り扱い）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価項目(方法)
1	1	現代社会を探ってみよう ○年表や写真資料を参考に、それぞれの年代の様子を知り、人々の生活が変化していることに気づく。	●年表や写真資料から年代とともに人々の生活が変化していることに気づかせ、細かい事象には立ち入らないようにする。	○年代とともに人々の生活が変化していることを理解し、現代社会に関心を持つことができる。(ワークシート)
2	1 (本時)	IT社会の到来 ○異なる新聞社のトップ記事を比較し、自分が読みたい新聞を選択する。 ○情報を選別する必要性を理解する。	●現代社会の特色をとらえる1つの社会的事象として取り扱い、これからの情報社会におけるあり方を考えられるようにする。	○自分が読みたい新聞について根拠をもとに説明することができる。(ワークシート)
3	3	大量消費社会の出現 食生活の変化 アジアとわたしたちの生活 国際社会と日本の役割 他文化社会の進展 ○興味・関心をもったテーマを設定し、現代生活の変化を表す社会的事象に関する調べ学習を行う。	●社会的事象とそれに基づく生活の変化に関心をもち、これからの学習への意欲が高められるようにする。	○年代による社会的事象の移り変わりから人々の生活の変化を読み取り、まとめることができる。(レポート用紙)
4	1	まとめと発表をしよう ○自分の発表や友達の発表を聞き、現代社会の特色に気づく。	●現代社会についての新たな発見や疑問、学習課題をもち、以後の公民の学習につなげられるようにする。	○自分とは異なる友達の発表から、現代社会のさまざまな特色に気づくことができる。(ワークシート)

5 本時の学習 (2 / 6 時間)

(1) ねらい

新聞社ごとのトップ記事のちがいがから、同じ情報でも伝え方により受ける印象が違うことに気づき、自分が選んだ記事について根拠をもとに説明することができる。

(2) 展 開

過程	時間	学習活動	主な発問と生徒の反応	指導上の留意点と評価	備考
導入	10分	① 最近気になったニュースを出し合う。	○最近気になっているニュースは何ですか。 ・昨日△△があった。 ・□□がもうすぐある。 ○そのニュースは何で見ましたか。 ・テレビ ・インターネット ・新聞	○意見が出にくい場合には、当日の新聞などを活用して、身近な話題にふれる。	新聞
展開	20分	② 新聞社による情報の伝え方の違いを比較する。 ・個人→班→全体	○この2つの写真を見て、それぞれどのように感じますか。 ・何か事故が起こっている。 ・悲しんでいる人がいる。	○使われている写真による印象の違いに気づかせる。	パソコン テレビ 新聞 ワークシート
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>【学習課題】</b> 情報の伝え方により、受ける印象はどのように変わるのだろうか。</p> </div>			
	15分	③ 自分ならどちらの記事が載っている新聞を購読するか根拠をもとに説明する。  ・個人→班→全体	○自分ならどちらの記事が載っている新聞を読みたいと思いますか。 ・事件のことを順を追って伝えているAの記事を選ぶ。 ・被害者の感情に寄り添っているBの記事を選ぶ。	○班で話し合ったことや全体で出し合ったことも参考に根拠をもとに自己選択する場を与える。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【評価】</b> 自分が読みたい新聞について、根拠をもとに説明することができる。</p> </div>	

ま と め	5 分	④ 本時のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞社や伝える人によって情報は伝わり方が変わってくる。</li> <li>・情報を選ぶことも大切だ。</li> </ul>	○新聞だけでなく、メディアのちがいによっても受け取る印象が変わることを付け加える。	
-------------	--------	--------------	---	---	--

## 6 モデルカリキュラムの位置づけ

情報モラル	道徳、各教科・特別活動 他
a4-1：情報社会における自分の責任や義務について考え、行動する。	
b4-1：個人の権利(人格権、肖像権など)を尊重する。 b4-2：著作権などの知的財産権を尊重する。	<p>技術「コンピューターの構成を理解しよう」 ソフトウェアのインストールを通して、著作権を理解する。</p> <p>技術「画像情報を処理しよう」 個人の写真撮影には肖像権を尊重することが必要なことを理解する。</p> <p>社会「社会の発展と新しい人権」 知る権利などの新しい人権が今日の社会で主張されるようになった理由に気づく。</p>
c4-1：違法な行為とは何かを知り、違法だとわかった行動は絶対に行わない。 c4-2：情報の保護や取り扱いに関する基本的なルールや法律の内容を知る。 c4-3：契約の基本的な考え方を知り、それに伴う責任を理解する。	<p>家庭科「消費者としての自覚をもとう」 消費者の基本的な権利と責任について理解する。</p> <p>道徳「美奈のプロフ」 携帯電話などを使うときに気をつけなければならないルールやマナーについて考える。</p> <p>社会「消費者の権利と保護」 宣伝や広告と日常の消費行動との関係に着目し、消費者主権について関心をもつ。</p>
d4-1：安全性の面から、情報社会の特性を理解する。 d4-2：トラブルに遭遇したとき、主体的に解決をを図る方法を知る。	<p>家庭科「消費生活について考えよう」 物事やサービスを適切に選択するためには、情報収集とその活用が重要であることを理解する。</p>
e4-1：情報の信頼性を吟味できる。 e4-2：自他の情報の安全な取り扱いに関して、正しい知識を持って行動できる。	<p>社会「現代社会とわたしたちの生活」 同じ情報でも伝え方により受ける印象が違うことに気づき、自分が選んだ記事について根拠をもとに説明する。</p> <p>国語「メディアを学ぶ」「テレビ映像の本質」 メディアとのつきあい方やメディアが伝える情報と今後どう接していくべきかを考える。</p>
f4-1：健康の面に配慮した、情報メディアとのかかわり方を意識し、行動できる。 f4-2：自他の安全面に配慮した、情報メディアとのかかわり方を意識し、行動できる。	<p>社会「政治参加と世論」 世論について理解し、世論を形成するうえでマスコミが大きな役割を果たしていることに気づく。</p>
g4-1：情報セキュリティの基礎的な知識を身につける。	
h4-1：基本的なセキュリティ対策が立てられる。	<p>技術「情報伝達の安全性とマナーを考えよう」 事例を通して、インターネット利用における注意点を理解する。</p>

<p>i4：ネットワークの公共性を意識して行動する。</p>	<p>技術「電子メールを連絡に活用しよう」 電子メールを利用する際に留意する点を理解する。</p> <p>社会「流通のしくみ」 POSシステムやオンラインショッピングの発達による流通の合理化を理解する。</p>
--------------------------------	---